

【基本方針】暮らしを支える地域公共交通の実現をめざして ～ 市・交通事業者・地域が協働して「まもる・育てる・つくる」公共交通 ～

基本目標 1：地域の幹線交通としての路線バスを「まもる」

■施策 1-① 市補助金の継続

(1) 赤字路線（4路線）に対する補助金の交付

地域乗合バス路線対策費補助金交付要綱に基づき、赤字路線（4路線）に対して補助金を交付した。

補助金交付路線：湯の沢線、名栗車庫線、中藤・中沢線、間野黒指線

(2) 高校生の通学定期補助

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
高等学校等通学補助件数	148件	146件	125件	108件

(3) 国際興業(株)との運行継続にかかる協定の締結

平成29年4月1日～32年3月31日までの3ヶ年の協定が締結され運行が継続している。

■施策 1-② 観光やイベント等によるバスの利用のさらなる促進

(1) 名栗バスセットチケットの販売（H30年2月20日～5月20日）

国際興業株式会社は、名栗地区のバス1日乗車券と名栗地区施設利用券をセットにした「名栗バスセットチケット」を販売した。

(2) わくわく名栗クラブによる利用促進事業の実施

名栗地区の活性化及び路線バスの利用促進事業の実施を進めている地域団体エコツアーの実施、その他のイベント、通信の発行・路線バス内での配布  
川遊びイベント実施：7月2日(日)、177名参加(豊島区、狭山市、入間市)



(3) エコツアーリズム

○公共交通を活用したエコツアーの実施件数

年度	鉄道を集合場所	バス停を集合場所
平成26年度	28件	19件
平成27年度	30件	10件
平成28年度	43件	10件
平成29年度	48件	14件

※エコツアー実施件数（参考）

年度	実施数	参加者数
平成26年度	121ツアー	4,260人
平成27年度	102ツアー	4,092人
平成28年度	119ツアー	4,094人
平成29年度	117ツアー	4,342人

○お散歩マーケット（間野黒指）参加者数

年度	春（5月）	秋（11月）
平成26年度	1,167人	692人
平成27年度	1,209人	761人
平成28年度	1,308人	671人
平成29年度	1,096人	822人

◎公共交通を活用したエコツアーの割合

平成26年度	約39%	(47件/121件)
平成27年度	約39%	(40件/102件)
平成28年度	約44%	(53件/119件)
平成29年度	約53%	(62件/117件)

(4) アニメツアーリズム

アニメ「ヤマノススメ」のラッピングバス3台が



市内を運行(国際興業バス)

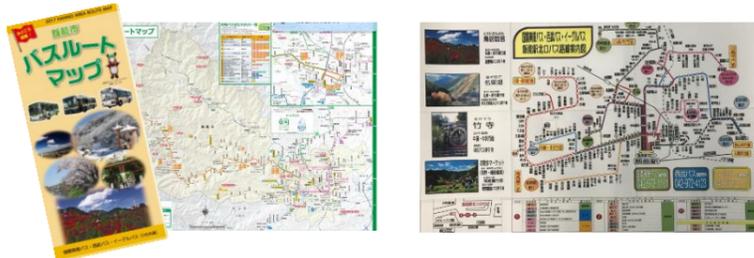
施策 1-③ バスの運行環境の整備

イーグルバス(株)が運行する武蔵高萩駅行の靖和病院停留所に靖和病院がベンチを提供。市が協力して安全面の確保を行い整備された。

基本目標 2：路線バスを身近にして公共交通を「育てる」

■施策 2-① バス路線をわかりやすくするための取組の推進

- (1) バスルートマップの配布(10,000部)・増刷(2,000部)
- (2) バス案内表示の設置 飯能駅北口案内表示の簡易な変更



■施策 2-② モビリティマネジメントの推進

- (1) 公共交通ニュースの発行
- (2) 市内「ノーマイカーデー」の実施



期間：  
12月8日(金)～17日(日)  
参加事業所：7事業所  
参加者数：341人  
個人参加者数：18人

Vol.36、特別号、広報 11月1日号

(3) ギャラリーバスの実施

国際興業株式会社にご協力をいただき、飯能の風景、水道週間ポスター、名栗の四季写真展など、路線バスの利用につながる絵画や写真を展示し利用促進に努めた。平成30年3月をもってギャラリーバスは廃止となった。

(4) バスの乗り方教室の実施

バスの乗り方教室の実施には至らなかった。(平成29年度)

■施策 2-③ バス利用のための利便性の向上

(1) サイクル&バスライドの検討・実施

中藤・中沢線と名栗線の結節停留所となっている新寺バス停については、継続して利用しやすいサイクル&ライドとなるよう、定期的に整備を行った。

市民及び市議会からの要望や環境の変化に伴い、国際興業(株)が運行する路線上に2つのバス停が新設された。(名栗方面：IJ入前、間野黒指方面：美杉台6丁目)

■施策 2-④ バス路線の見直し等の検討

- (1) 大河原工業団地立地企業従業員の足の確保の検討
- (2) 西武飯能日高路線変更の検討・実施

利用者にとって利用しやすい路線を目指し、路線バスを運行する交通事業者への情報提供や協議を行い、路線変更を前向きに検討した。

基本目標 3：生活を支える公共交通手段を「つくる」

■施策 3-① 「おでかけ」を守るための検討

- (1) 飯能市地域公共交通対策協議会(分科会)の開催(法定協議会) 第2回～第5回協議会の開催、第1回～第4回分科会の開催
- (2) 市民アンケート調査の実施  
調査地域：飯能市全域 無作為抽出により市内2,100世帯に配布  
調査期間：平成29年10月23日～11月6日  
回収率：50.4%
- (3) 各地区別取組案の検討・作成  
網形成計画の策定に向け、各地区の現状把握や課題整理を行った後、地区別の取組案を作成した。
- (4) 交通事業者との意見交換の実施  
福島大学吉田准教授を座長とし、市内バス事業者(3社)の代表者を委員とした分科会を4回開催し、必要に応じた情報提供や市内バス路線についての意見交換を行った。
- (5) 庁内検討委員会及び暮らしやすい移動・交通についての打合せ会の実施  
庁内関係課職員を委員とした会議・打合せを開催、庁内合意を得た。
- (6) たすけあいあがの(地域福祉推進組織が実施する無償運送)の支援  
移動交通部会が中心となり進めた、現状・課題の把握のためのアンケートの集計・分析やとその課題解決に向けた話し合いへの支援を行なった。

■施策 3-② スクールバス等社会資源の活用の検討

(1) スクールバスの活用の検討



地域に出向きニーズ等を把握しながら、教育委員会、交通事業者とともに実施に向けた協議や確認を行った。

(2) 社会資源の活用の検討

飯能駅北口・南口、東飯能駅東口・西口を発着所としている企業や学校の送迎バスについて2日間の調査を実施した。

※年度の途中において「飯能市地域公共交通基本計画」に基づき実施している事業や取組の効果を「レビュー」としてまとめ、精査を行った。その中で、継続の必要がある取組を「飯能市地域公共交通網形成計画」の実施計画に反映した。